

発行所(郵便番号100)
東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング781号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (212) 4007・1447

編集 中 嶋 博
責任者

印刷所 関東図書株式会社
定価200円(年間購読料参千円)

1988年4月25日発行

第20巻第4号

(毎月1回25日発行)

昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.20 No.4

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No.781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

スウェーデンに学ぶ生涯学習体系

Study of the Lifelong learning System on Sweden

文教大学教授 菊池幸子

Prof. Sachiko Kikuchi.

臨時教育審議会の答申を受けて多くの教育改革が実現されようとしている。それらのなかで私が最も関心が深く早く実現させたいのは個性重視の原則と生涯学習体系への移行である。思えば私が生涯学習の制度化を最初に論じたのは約17年前のことになるが、そのきっかけは、スウェーデンで生涯学習体系を国策として取り入れるべく検討を始めたことに示唆を得たからであった。

3年間にわたる臨教審の審議討論のなかで日本に生涯学習体系を実現するにあたっての参考国としてアメリカ、スウェーデンの事例がしばしば取りあげられたが、結局はアメリカのケースが重視され、社会教育すなわち学校教育以外の分野を中心とする生涯学習の体系化が答申に書かれたのである。

しかし学校教育とくに小中学校の義務教育をも包括してこそ、生涯学習が完全に体系化されるのであり、その実験国はスウェーデンなのである。これを経験している私は臨教審解散前の最後の会合で、「今後は義務教育学校の教育内容・方法を包括する生涯学習体系を研究します」と約束した。その後生涯学習社会の研究プロジェクトチームを、(財)福祉社会研究所に組織し、継続的に研究を行っている。

スウェーデンの義務教育は総合制基礎学校で学ぶことになっている。わが国の小中学校の9年間と年限は同じであるが、カリキュラムは低学年(1～3年)、中学年(4～6年)、高学年(7～9年)の3段階になっており、各段階ごとに各教科の目標、内容・方法を示し、これを地方教育当局や学校で具体化し実践するようになっている。そこにはひとりひとりの児童生徒の個性による選択制と

地域ごとの進路指導の特色が配慮されているからである。例えば低学年では国語や算数などの基礎教科が中心であるが、中学年では社会・理科などの応用教科も重視され個性発揮に役立つようになる。高学年では家庭・美術・技術工芸などの選択教科が進路と関連して選択できる。外国語は低学年の3年から英語が必修、高学年ではドイツ語、フランス語が選択できる。週5日制、秋期入学等における夏休みの子どものための家庭・地域での生活も生涯学習と関連づく。

大学の成人解放について私は1975年にストックホルム大学の日本学科を教えたとき既に経験した。青年学生は約半数にすぎず、その他はサラリーマン、主婦、企業の幹部および高齢の年金生活者など生活経験豊かな社会人が多く、教師たるもの真剣に絶えず学ばなければならなかったので強い印象に残ったのである。

いまわが国でも生涯教育体系に移行するに当り、スウェーデンに学ぶべきことが全く多いことを痛感しているのである。

目次

| |
|--|
| スウェーデンに学ぶ生涯学習体系 … 菊池幸子… 1 |
| 1988/89年度予算案について(上) … 松下正三… 2 |
| (ニュース) 松下正三先生にウプサラ大学より 名誉哲学博士号 ……………… 3 |
| 瑞星波濤を越ゆ(最初の来日瑞人) …………… 福本一朗… 4 |
| (Göteborg通信) スウェーデン式非常食 …………… 三瓶恵子… 5 |
| SIP ニュース ……………… 6 |

1988/89年度予算案について (上)

Statsverksproposition 1988/89 (1)

- 「第三の道」を継続
- 国際収支に陰り
- 引続き予算の赤字減少
- 引き締め政策

元スウェーデン日本大使館参事官 松下正三

Former Councillor to Japanese Embassy in Sweden. Shozo Matsushita

スウェーデン政府は去る1月11日国会に対し、1988/89年度(88年7月1日より89年6月30日まで)の予算案—Statsverksproposition—を提出したところ、過去6年間の例にならい、右予算案、予算案に示された政府の経済・財政政策の概要、予算の特徴、予算案の前提となった政府の経済見通し、各省予算の特徴等を財政省発行の「予算概要」(Sammandrag)等に基づき、その概略を述べることとした。

I. 経済・財政政策 — 概要と経過

政府が1982年以来とって来た所謂「第三の道」(1986/87年度予算案参照)はスウェーデン経済の活性化に大きく貢献して来ている。長年続いた国際収支の大巾赤字は'86年初めて黒字に転じた。1982年からの5年間で国民総生産(BNP)は13%増、工業投資は60%増、工業生産は20%増、また、一時3.5%に達した失業は2%を割るに至った。更に、1982年にGNPの13%にも達した年次予算の赤字は逐年減少し、1%ラインにまで改善された。

斯くて、「第三の道」は引続き継承される。「第三の道」の最重要課題は、いうまでもなく、「公平な配分」である。「完全雇用」はそのための必須条件である。更に、完全雇用を実現するためには経済の発展—国際競争力の向上が至上命令である。

しかし、漸く黒字に転じた国際収支に陰りが見えて来た。1987年に約48億Kr、1988年に約122億Krの赤字が見通されるからである。この主な原因は、過去数年間のスウェーデンのベース・アップが他の競争相手国のそれを計50%も上まわったことにある。更に、物価上昇率も('86年4%、87年

5%)他の競争相手国の平均4%を幾分上まわったこと、ならびに、国内消費の拡大及び大国間の貿易の不均衡もこれに拍車を加えた。(尤も、米ドルの下落及び西独マルクならびに円の上昇は一部の工業分野に有利に作用した。)

従って、今次予算の重点は引き締め政策におかれなければならない(予算は、75億krの増額にとどめる)。特に大事なことは、88年、89年のベース・アップが、他の競争相手国の平均値と見做される4%ラインを越えてはならないことである。これによって、両年の物価上昇率は約3%に押えられる見通しである。その場合でも、89年も国際収支の赤字は避けられない見通しである。今次予算における経済見通しは、ベース・アップ4%を前提として作成されたものである。

引き締め予算ではあっても次の重点施策を行う。

(1)教育 義務教育教職員を対象とする1ヶ年にわたる「継続教育強化プログラム」

教科書の内容の質を高める(特に、数学と環境問題)

単科大学の科目増設を続ける

研究機関に対する助成の増額

(2)社会 老人ケアを最優先的に続ける

エーズの防止対策

(3)環境 「国際環境技術研究所」をストックホルムに設置する。

(4)対外関係 発展途上国援助を増額し、引き続きGNI1%枠を堅持する。これは、実に本邦の実績の3倍強で、財政難であった80年代前半においても継続されていたヒューマニズムスウェーデンの執念である。

II. 予算の前提となった政府の経済見通し

(1) 需給のバランス 1986~88

(億 Kr 以下四捨五入)

| 供給 | 1986 | 対前年比変化(予測)% | | |
|---------------|-------|-------------|------|------|
| | 億Kr | 1986 | 1987 | 1988 |
| G N P (国民総生産) | 9337 | 1.2 | 2.5 | 1.9 |
| 物資及びサービス輸入 | 2774 | 5.6 | 4.9 | 4.4 |
| 供給総計 | 12111 | 2.2 | 3.1 | 2.5 |
| 需要 | | | | |
| 個人消費 | 4803 | 4.3 | 4.0 | 2.0 |
| 公的消費 | 2581 | 1.3 | 0.9 | 1.5 |
| (内訳) 政府 | 705 | 2.6 | -0.3 | 1.0 |
| コミュニン | 1876 | 0.8 | 1.4 | 1.7 |
| 投資総額 | 1700 | -1.0 | 5.8 | 2.5 |
| 物資及びサービス輸出 | 3088 | 4.5 | 2.9 | 2.5 |
| 需要総計 | 12111 | 2.4 | 3.1 | 2.5 |

(2) 貿易収支ならびに国際収支のバランス

(億Kr以下四捨五入)

| | 1986 | 1987 | 1988 |
|-----------|------|------|------|
| 物資の輸出 | 2651 | 2789 | 2931 |
| 物資の輸入 | 2325 | 2554 | 2713 |
| 調整ポスト | -1.7 | -1.7 | -1.7 |
| 貿易収支のバランス | 309 | 218 | 201 |
| サービスバランス | 33 | -17 | -30 |
| 資本収支バランス | -274 | -249 | -293 |
| 国際収支のバランス | 69 | -48 | -122 |

III. 予算の推移

(億Kr以下四捨五入)

| | 1982/83 | 1986/87 | 1987/88 | 1988/89 |
|----------------|---------|---------|---------|---------|
| 収入 (億 Kr) | 1912 | 3201 | 3334 | 3414 |
| 対 G N P 比率 (%) | 28.6 | 33.4 | 32.2 | 31.3 |
| 支出 (除国債利子) | 2296 | 2715 | 2890 | 2993 |
| 対 G N P 比率 (%) | 34.4 | 28.3 | 28.0 | 27.4 |
| 国債利子 (億 Kr) | 482 | 638 | 591 | 540 |
| 予算のバランス | -866 | -152 | -147 | -119 |
| バランスの対G N P比率% | 13.0 | 1.6 | 1.4 | 1.1 |

IV. 予算案

(百万Kr以下四捨五入)

(1) 歳入の内訳 (百万Kr)

| 項目 | 百万Kr | 歳入に占める比率% | 対前年度比較億Kr |
|------------------------------|--------|-----------|-----------|
| 所得税・営業税 | 89114 | 25.2 | +197 |
| 法定社会保険料 | 55617 | 15.7 | -72 |
| 固定資産税 | 16138 | 4.6 | +16 |
| 付加価値税 (moms) | 80800 | 22.8 | +84 |
| 物資・サービスに 対するその他の税 (内訳) | 59762 | | |
| ガソリン税 | 14000 | 3.9 | +19 |
| 煙草税 | 4400 | 1.2 | +1 |
| 酒税 | 8210 | 2.3 | +1 |
| エネルギー税 | 14150 | 4.0 | +15 |
| 交通税 | 6072 | 1.7 | +7 |
| 関税 | 2500 | 0.7 | +6 |
| 国営事業収益 | 30866 | 8.7 | +29 |
| その他の収入 | 9146 | | |
| 収入総額 | 341443 | | +325 |
| 予算不足額 (国債) | 11865 | 3.4 | -250 |
| 総計 | 353308 | | +75 |

(2) 歳出の内訳

(百万Kr以下四捨五入)

| 項目 | 百万Kr | 歳出に占める比率% | 対前年度当初 予算との比較 (百万Kr) |
|--------------|--------|-----------|----------------------------|
| 王室費 | 40 | | +5 |
| 法務省 | 11158 | 3.2 | +828 |
| 外務省 | 12148 | 3.5 | +517 |
| 国防省 | 29764 | 8.6 | +3386 |
| 社会省 | 95421 | 27.5 | +4159 |
| 交通省 | 11567 | 3.3 | +35 |
| 財務省 | 28893 | 6.9 | +3203 |
| 教育省 | 47200 | 13.6 | +4031 |
| 農業省 | 5757 | 1.7 | -434 |
| 労働市場省 | 23851 | 6.9 | +2601 |
| 住宅省 | 18697 | 5.4 | +2934 |
| 工業省 | 4207 | 1.2 | -874 |
| 内務省 | 2914 | 0.8 | -254 |
| 環境・エネルギー省 | 5149 | 1.5 | +260 |
| 国会 Riksdagen | 541 | 0.2 | +63 |
| 国債利子等 | 54000 | 15.6 | -9000 |
| 不時の出費 | 1 | | |
| 歳出計 | 346308 | 100 | +11461 |
| その他 | 7000 | | |
| 総計 | 353308 | | |

(次号につづく)

松下正三先生にウプサラ大学より名誉哲学博士号

本稿を執筆された元スウェーデン日本大使館参事官松下正三先生には、このたびウプサラ大学より名誉哲学博士号が授与されました。その正式の授与式は、来る6月に同大学にて挙行される由であります。

当研究所といたしましても、まことに目出度限りで、本誌上をかりご祝詞し申し上げます。

瑞星波濤を越ゆ

— 最初の来日瑞人、ベルゲンシャーナ提督 —

イエテボリー在任 福本 一 朗

カール・ペーテル・トゥンベリ (Carl Peter Thunberg 1743-1828) が田沼時代の1775年に最初に来日したスウェーデン人科学者・医師であることは一般に認められている。

(文献1) またそれ以前にもスウェーデン軍人、オロフ・エリクソン・ヴィルマン (Olof Eriksson Willman 1620? - 1673?) が、トゥンベリに先だつこと1世紀以上前、1651年に来日し1年滞在中、帰国後2冊の日本紀行を出版したことも、ヘラルド・ヤーネ (Herald Hjärne) の著者「2人のスウェーデン人日本渡航者 (Två svenska Japanfarare, 1923)」を通じて日本にはよく知られている。しかし、このヴィルマンの来日よりさらに4年前、スウェーデン人として初めて日本の土を踏んだ人物がいることはあまり知られていない。ヨハン・オロフスソン・ベルゲンシャーナ海軍提督 (Johan Olofsson Bergenstjerna 1618-1676) がそのひとである。

ベルゲンシャーナは、授爵前の姓をベリィ (Berg) といい、ストックホルムの東北約100kmのノルテリェにすむ市民オロフ・アンダション・ベリィを父としカーリン・アンダシュドッテルを母として、1618年6月23日に生まれた。8年間の学校教育を故郷で終えた後、ストックホルムとオーボーの兄の下で1年間帳面付けと勘定方を修業する。親元にいつまでも置いておきたいという両親の期待に反して、船乗りになりたいと子供の頃から願っていた彼は、1640年に海軍本部付き狙撃兵となり、1643-45年の対デンマーク戦争に参加する。海の生活が彼に合ったのか、1644年のフェメルンの海戦や、1645年のボルンホルム島征服作戦に参加して海軍での下士官階級を着実に昇っていた。1645年のブレムセプロの和議でスウェーデンがデンマークを屈服させた後もベリィは洋上勤務を続けた。

1646年、交戦国の仏海軍少将ド・ラ・ガルディ大使一行をフランスに送り届ける遠征船隊に参加し、途上オランダのブリッセンにて2人の東印度への航海者と会い冒険心をかきたてられる。上司の提督に頼み込んだ彼は、生きて帰国した暁に

は再びスウェーデン王国軍に復職するという条件のもと、休職してオランダ船の水夫となる許可を得る。1646年9月18日晴れて蘭船ユング・プリンツ号の船員として雇われた彼は、5年におよぶ大遠征を開始する。彼の航海日誌は失われてしまったが、いくつか残された手紙などから航海の大略を知ることが出来る。まず大西洋を渡りカナリア諸島からブラジルの海岸に至り、そこから引き返して希望峰を回り1647年には赤道の南6750kmのところをいた。その後ジャワ島のバタヴィアに至り異郷の礼拝儀式に注目する。ここでユング・プリンツ号を下船した彼は、あらたにバルゴウト号に雇われ、シャムに行く。当時の首都アユチャで5つの黄金のバタゴに驚く。そして1647年8月ついに、日本に到着する。まだ独身のベリィが歴史上最初の来日スウェーデン人となったのは、若干29才の夏であった。

当時の日本は、1639年にポルトガル人を国外追放して鎖国が完成され、1641年にオランダ商館が出島に移されてやっと6年目だった。ベリィの日本滞在中がどのようなものであったかは、彼自身の著作がなにも残っていないのでいくつかの2次資料から類推するしかない。ただ、新井白石がイタリアの宣教師シドッチを喚問して西洋紀聞を著わしたのが62年後の1709年、日本の蘭学の祖と言われる青木昆陽が将軍吉宗の命でオランダ語を学び始めたのがこの83年後の1740年のことであるので、オランダ語を通じて海外の知識を取り入れようという気風はまだ醸成されて居らず、出島のベリィがほとんど日本人との文化的交渉を持たなかったことは想像に難くない。ベリィ来日の4年後に来日したヴィルマンはスウェーデン軍人であることが発覚して、西洋の地理学と兵学を講義させられたことがわかっているが、ベリィの場合はそのような形跡さえない。何事でも「本当の世界初」ということはそうであるように、本人自身も自覚せず、ただ彗星のように現われ何の後も残さず、ただ去って行ったのかも知れない。

その後ベリィは1651年8月にオランダに戻るまでの5年間、政情不安な東支那海と東印度洋を何

隻もの船で航海して巡り、時にはジャンクで建国間もない清国国内の河川の旅も経験している。1651年11月スウェーデンに帰国後すぐさま、彼は5年前の誓約に従ってスウェーデン海軍本部に申告し、軍籍に復帰している。ペリィが帰国した頃のスウェーデンはウェストファリア条約により、西ポメラニア、ブレーメン教会領を獲得し、かつ神聖ローマ帝国に参加する権利を得て、永年の宿願であるバルト帝国を完成し欧州の一大強国となっていた。啓蒙君主クリスチーナ女王に呼ばれた哲学者デカルトがストックホルムで没したのは、ペリィの帰国前年である。彼の復職後の戦功は目覚しく、1651年海軍中尉、1653年海軍大尉、1655年海軍大佐、1656年オーランド中隊長をへて、1657年から1660年の対デンマーク・ブランデンブルグ戦争（後にオランダも参戦）に参加する。この戦争中、ペリィは負傷したにもかかわらず数々の武勲に輝いた。戦後1665年秋、ランズクローナからイエテボリへの商船隊護衛任務につく。同年11月23日海軍少将に昇進。1666年の5月から9月、フレミング大使とコヨーテ大使を軍艦でイエテボリからロンドンに送る。1671年6月3日海軍中將に昇進。1675年10月、ステンボック海軍大将の副官として旗艦クローナン号に乗船、勤務する。1676年4月17日海軍提督を拝命、授爵姓ベルゲンシャーナを名乗り、第4艦隊長官として、旗艦ビクトリア号に乗船する。乗船中突然の悪寒に襲われ、わずかに16時間後に旗艦上にて死亡する。此の時1676年5月20日、享年57才、ストックホルム南方ランズオート沖のことであった。この年ブランデンブルグ軍がスウェーデン領ポメラニアに侵入しており、デンマークと交戦状態に入っていたの

で、ベルゲンシャーナ提督は作戦行動中だったと思われる。彼の死後、第4艦隊は分割され、旗艦ビクトリアの指揮はベルゲンシャーナ提督の甥のオロフ・アンダション・ベリィ少将がとった。遺体は1678年5月12日ストックホルムのヤコブ教会に納められ、更に彼の領地のあったオーランドのレムランド教会に彼の妻と共に埋められた。彼の妻クリスチーナ・ペールスドッテルは1632年6月24日生まれで、1652年に20才でベルゲンシャーナに嫁ぎ、夫の死後8年目の1684年52才の時にヨハネス・ゲゼリウス司教と再婚し、1703年5月8日に永眠している。領地でのベルゲンシャーナ夫妻の生活はつましいものであったらしく、戦傷と貧困のために税の一部を1673年6月11日に免除されているほどである。ベルゲンシャーナ提督は、ストックホルムのリッダルフューセッ（騎士会館）での叙任式の前に急死したため、その子孫に貴族としての名前を残すことが出来なかった。その手紙類の一部は、彼の妻の義理の息子のヨハネス・ゲゼリウス司教によって1708年に国立資料館に寄贈された。

参考文献

- (1)福本一朗、「出島のリネン」、ビョルク、Vol.16、P6-7、1987.9
- (2)Svenskt Biografiskt Lexikon, Del 3, P 465-468, Albert Bonniers, Stockholm, 1922
- (3)Svenska Män och kvinnor, Band 1, P 237, Albert Bonniers, Stockholm, 1942
- (4)Svensk Uppslagsbok, Band 3, P 692, Norden AB, Malmö, 1948
- (5)Nordisk Familjebok, Del 2, P 1448, Stockholm, 1940

〈Göteborg通信〉

スウェーデン式非常食

Food Storing for Emergencies in Sweden

会員 三瓶 恵子
Ms. Keiko Kjellsson-Sampej

去年とはうってかわって暖かな日が続いています。ここ西海岸地方は雨降りばかりですが、南のスコーネ地方ではもう春の花が咲きはじめているそうです。巷では賃上げをめぐるの私企業労働者のストライキもようやく終わり、魔の税金申告

メ切日もすぎて、各学校の「スポーツ休暇」sportlovのまっただなか、「平和」な日々が戻ってきたように思えるのですが、なぜか最近食糧庁 livsmedels-verketから「非常食の備えを！」というガイドラインが出されました。下の表がそれ

で、おとな二人、子ども二人からなる家族が一週間生きのびるための非常食の備えだそうです。

| | | |
|-------------------------------|----------|------|
| スキムミルクまたはココアの粉 | 500 g 入り | 4 袋 |
| オート・ミールの粉 | | 1 袋 |
| 肉または魚のかんずめ | | 4 kg |
| マッシュ・ポテトの粉 | 1 kg 入り | 2 袋 |
| 米またはマカロニ | 1 kg 入り | 2 袋 |
| 乾パン・ビスケット類 | 500 g 入り | 8 箱 |
| コーン・フレークス類 | 1 kg 入り | 1 箱 |
| バターまたはマーガリン | 500 g | 3 ツ |
| メルティング・チーズ | | 4 ツ |
| 果物のかんずめ | | 4 ツ |
| ジャム類 | | 2 瓶 |
| 果汁スープ(とろみのあるジュース のようなもの)の粉 | | 1 kg |
| さとう | | 1 kg |
| チョコレート・クッキー | | 適宜 |
| レーズン | | 適宜 |
| インスタント・コーヒー | | 1 瓶 |
| または紅茶 | | 1 箱 |

この表通りの食料の備えがあれば、ちゃんと必要なビタミン、カロリー、繊維質がとれるのだそうです。ちなみにこれだけの食料品の値段は600～700クローナ(約12600～14700円)です。また薬局では自然にある水——泉、湖、井戸等——を飲料水用にする薬が買えるそうです。幸いにしてまだそういう薬を買わねばならない危機に陥った

ことがないので、その値段は知りませんが。

この非常食のリストをみて気づくことは、“非常”といっても、スウェーデン人の日常の食料とあまりかわらないことです。おききおよびだと思いますが、スウェーデンの普段の食事は大変簡素なものです。この表の食品に牛乳、生野菜少々、生の肉・魚を加えればほぼそのまま“平常”の食事になりそうです。私の一番身近にいるスウェーデン人は、昼はあたたかい食事を食堂でとるものの、朝はコーン・フレークスだけ、夜はチーズカレー・ペーストのサンドイッチだけという、献立作りに頭を悩ませずにすむ食生活をしています。危機の時代になっても、彼はあまり食生活に不満を抱かず生きのびることでしょう。

ところでこのような非常食を備えておく必要性については、豪雪、水害等の自然災害と並んで停電等の事故、作爲的破壊活動、戦争等がその理由としてあげられています。パルメ首相暗殺以後、ラジオの第3放送(24時間放送)は毎時間ニュースを流すようになりましたし、こちらはパルメ首相暗殺とは直接関係がないと思われていますが、ここ2、3年毎月第1月曜日の午後3時にサイレンが鳴るようになりました。このサイレンは非常時用のもので、これが聞こえたらすぐラジオの第3放送をきくようにと指示されています。ヨーロッパのかたいなかのスウェーデンでも平和をむさばるような状態にはありません。アジアの爆弾を隣国にかかえている日本ではどうなのでしょうか。

(参考: Göteborgs-Posten紙 1988年2月12日付)

<SIP ニュース>

1987年度の産業投資、14%の増加

昨年10月及び11月初めに中央統計局が行なった調査によると、1987年度のスウェーデン産業の設備投資は現行価格で365億クローナ(8,030億円)と見込まれており、これは量的に1986年度と比べて14%の増加に相当する。このうち、機械投資と工場設備投資の増加率は各15%、13%となっている。

1987年度に大型の投資を行なった部門は自動車産業(前年度比で34%増)とパルプ・製紙産業(23%増)で、この二部門のみで本年度の総投資の3分の一以上を占めた。繊維産業の投資も前年度比で23%の増加を示した。逆に、1986年度に比して投資が減った部門は印刷業であった。

企業の1988年度の投資計画は、ひき続き増加傾向を示してはいるものの、経済動向についての昨今の不安定な状況を考えると、増加率はおそらく5%未満に留まることとなろう。

また、我国の電力生産者は本年度の投資を103億クローナ(2,266億円)と見込んでおり、これは前年度比で4%の増加に相当する。なお、同部門の来年度投資はひき続き8%の増加を示すものと見込まれている。

卸売業及び小売業は、1987年度に量的に昨年度値を2%上回る62億クローナ(1,364億円)の投資を行なったが、来年度は本年度を上回る投資を計画している。また、運送会社の投資は6%増173億クローナ(3,806億円)であった。なお、量的には、同部門の投資は1970年代初め以来の最高値を示した。この増加の大半は国有企業の投資増によるものである。ただし、1988年度の同部門の投資は減少することが見込まれている。